



Vol.38

# ナンセンスな歌

今回の歌には「牡牛」（オスの牛）が詠まれています。牛は、古代では農耕や運搬に重用された身近な動物でしたが、意外にも、『万葉集』では牛そのものを詠んだ歌は三首しかありません。今回はその中の変わった一首をご紹介します。

『万葉集』はまじめな歌ばかりで難しい！と思っている方もいらつしやるのではないのでしょうか。ご安心ください。今回の歌は、歌の意味を理解する必要はありません。この歌には「心の著く所無き歌」という題がついています。これは「意味の無い歌」という意味です。この歌は、舎人親王（天武天皇の皇子）が従者たちに、「意味の無い歌を作る者がいたら褒

わぎもこ  
吾妹子が額に生ふる双六の  
ことひのうし  
牡牛の鞍の上の瘡

安倍子祖父

卷十六

三八三番歌

【訳】 吾妹子の額に生えた双六の強力牛の鞍の上の腫れ物よ。

美を出そう」といい、安倍子祖父がすぐにこの歌を献上し、賞品として銭二千文などを与えられたと伝えられています。当時としてはかなり高額だったようです。子祖父はこの時に「わが背子が犢鼻にする円石の吉野の山に氷魚そさがれる」（三九三九番歌）という歌も詠んでいます。わが夫が禪にする丸い石の吉野の山に氷魚がぶら下がっている…。今回の歌と同じく、わかるようでわからない、頭の中をかき回されたような気持ちになる歌です。

人間が言葉で何かを表現しようとする時に、意味を持たせないようにするというのはなかなか難しいものです。それでいて、五七五七七の音数に合わせてきちんと言葉があてはめられているので、歌として成立しているように聞こえてしまいます。

この絶妙なあんばいが、舎人親王や周りの従者たちの高評価を獲得したものと想像されます。古代の一流変わった歌大会の一幕だったのかもしみませんね。

（本文 万葉文化館 大谷歩）



5月号P8本文3段目の巻十一・二三四番歌の「采ぬ」は「采ね」の誤りでした。お詫びして訂正します。

## 県営うだ・アニマルパーク

万葉ちゃんの  
つぶやき  
和歌に関連するものを紹介するよ!!



万葉ちゃん

ポニー乗馬体験にヤギ・羊のえさやり体験、牛の乳しぼり体験など、子どもたちが大喜びの体験がいろいろあります。動物たちと楽しく遊んで、ふれあって、いのちの大切さを学べます。6月7月のイベント情報はP20へ。



問 県営うだ・アニマルパーク  
☎0745-87-2520  
所 宇陀市大宇陀小附75-1  
休 月曜（祝日の場合は翌平日）  
☎ www.pref.nara.jp/1839.htm